

明寫後正夢 六編 中

^ 13

2909

20

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

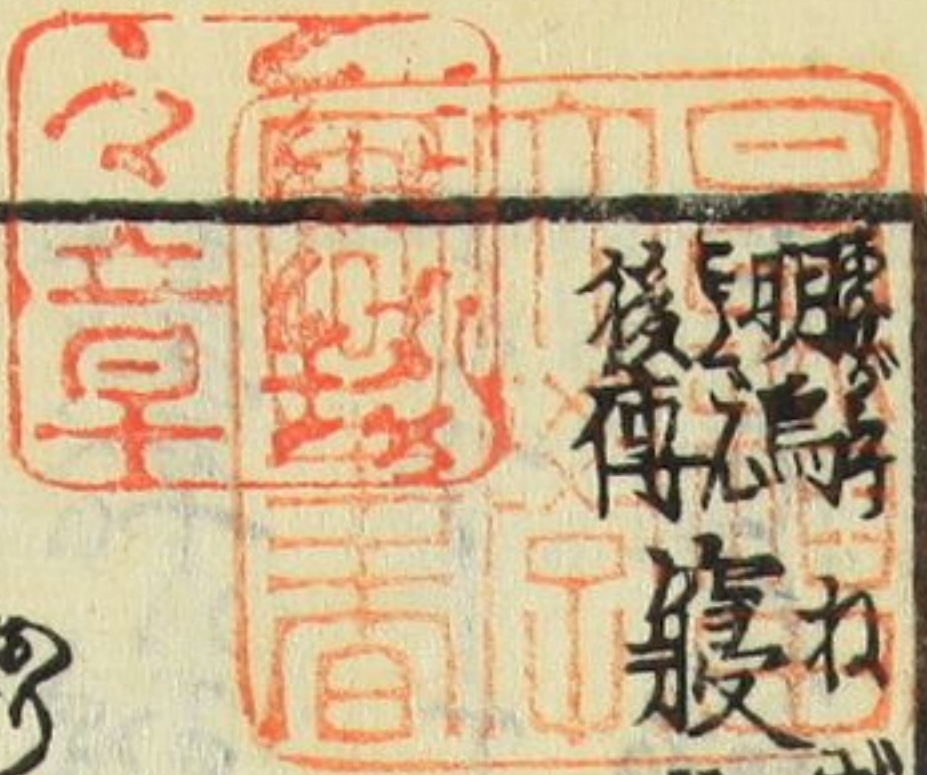
門へ 13
號 2909
卷 20

睡鴻 寝覺 線言 卷之二

東都 南僊笑楚滿人編次

第三回

かゝ折しも慌しく又門の戸を叩く。お松ハ今
更胸裏きこころのやあむが草のどのて返す了物さへ
奈何いせんと周章て迷ふ。浦左門はこれと制し係
さすも怒る。夏ふ草も本も我天君の國さるま如
うる天魔鬼神さるとも理解と鏡が波入ぬとさ



昭和九年
七月二日
購求

すらん親も六務つと一将が向かむを御へよしのころ
 奮りやういふも畜子の縁ハたまは重なること
 輝くまをいふ言ふらむはまも平もあてはは物あぶ
 とまこと獨りおまは隣村へと急ぎいひお松らそまへ
 へらとあつとヤ夫最おのおせが狼籍といひ今のま
 卒ら言葉のそとくへ娘上の心あひのらんとけざり
 よふす虚をかくてあつらふ彼等が鳥よ捕らして
 憂取かへん八日前早の畑業とあるふそや二言れ

実おりの浦右門のさる愛よ女宗とてあらん
 よう一先常娘君の園ゆらともは所と蜜よ列の
 絶るよ若くまら古縁も三十六計も走るが一の
 手とゆらとく用意一あつとあつと松の縁を
 務まへりては由と娘君の園は叫くは夜その入
 死しとする折ら又のやあとの六村の歩はが
 よう浦右門の縣守のあつとら唯今とていふ
 てまつと獨り釘とて六最早友平めが新入るそ

物うらん。さく実合と紀きす。て麻忽の振舞うす。
るらバ輩は輩と重なる。及理ゆへとす。あま我入懸守
のなまへららん。その内よき方ハ。姫君を園と懸つて。
人間川の川上へと。唄くらもせきしむる。共卒を
先よとせつ。ひあしと浦をの経身へ。いさでい
跡よお松ハうひく。く。姫君おそのと。もそが。つ。の
少き。面と包手。材境まで。まのる。野は待の命
たる。勘吉。庵草。送。よ。左。右。の。松。蔭。より。と。や。喃。く。と

よびら。て。お。ま。ら。る。よ。お。松。ハ。愛。ぞ。一。生。命。弱。を。
月。并。ど。と。身。が。ま。へ。と。て。く。は。何。ゆ。え。妻。ま。よ。び。と。め。
あ。の。や。こ。の。あ。勘。吉。庵。草。ハ。口。と。と。り。て。ら。あ。ら。ハ
昼。間。の。約。束。変。替。し。て。い。ま。ま。重。三。あ。そ。の。ど。の。も。張
り。様。と。夜。る。夜。中。の。所。と。と。り。て。は。ゆ。め。ぞ。い。迎。
よ。と。恐。ら。く。ハ。お。ま。の。口。の。知。る。鐘。ヶ。洲。の。お。せ。が。子。か。の
あ。や。せ。の。あ。ま。れ。の。あ。が。
浸。ぬ。る。為。傍。邊。ハ。せ。と。と。り。ま。う。く。も。ぞ。お。松。ハ。腰。日
對。し。る。刀。の。柄。よ。ま。ど。り。け。て。女。で。こ。と。も。さ。長。士。の。妻



Vertical text on the right margin of the second page, likely a page number or chapter reference.

不礼とらるるが身ハハせざと二人と信と白眼ゆき
彼落戸ホハ呵くと笑ひこやうるるを網四の五の
ぬしうらだてふと車三を引ずり乃ト罵つて
も左右よりあてかゝる飛しりの白又と一と
をみして二人と後よかみひつ寄バ切んと身がま
たうと思根ホらまきともせず。だんてふとあて
ると急交とあてあてと勤し身建がけふよあつて
うまの働りまづい川の深き深きとちりとも

早く落延の入妻ハ跡くら夫緒ともあつて退分まる
らせと速く髪をいそがせむを園のころ入重と那が
と取去んとする体は二人らまきりよ氣とあせり
とあつたのぶさび詮る一む身よのじゆとあつた
うく切交太刀風あしろあまよ。二人ハかみく遊のびて
入間川の辺の遊くらまよ。を園ハ車三よあつて
まきとつらまらめあへ入甲も遠く信まのえ
やあままであせあが仲間の者も糸のまど。おん女く

おん女く

おん女く

おろしつゝ言ひつけて後むく堤の柳の木の下は忍
 女のおまことして多人よりぞおまをさへるなまどそかくら
 かつしとこのおまはよ。二人の影は月影よすううーんまを
 是別人のうづ鐘が例のおせうりくまぶ兩人の男は
 志であつてふくめた外人とする誓をぬて引ひ
 アフ秘しきや腰きや。かく有らんと思ひひの糸材坊
 小助言と唐傘とつけおれて妻は先へ爰へ来て細を
 たるともいざあらず。此男ホ二人虚くとは川端へ来り

志の榮よからと。奥同前は女郎あがのゆふ私
 ひのあつぐふぬのや。どふてくまふと格好の顔を見
 鬼女の如くお園をまよすうのひく。攻さうある光
 景は塞河原は牛頭馬頭が。子どもとせむる如く
 傍より居る常姫が言。さうこそおそろく。喃こ
 待てとせむるぞ。い恨めし氣はらん入つて。左まよ
 女とりをひまふ。此男とて可憐きまぶ。餘つと憎さ
 百倍甘の落花ひあきどは。法あは。強面漢目

物見せてくまへずと。つらみかたらん勢ひの折しも
をせまる浦右門遠目よとまじと見るもまじ文
字よ又月くおせとあつて二二間。夫庭よ砂地へ投付
と。嬢姑よつらる嬢婦をせとくもせまふお返す
意の邪テする奴息も別裂くまへとつらみ付とま
投のくまじとつらとまよ。むやぶつらくは詮方なく
かどく。抜く腰刀。おせハ見らる猶怒り。ぬハ妾
と殺す。ぬら。女でこそあまは年頃。叙の中も後て

まじ鐘が淵と異名のつきたるはむせと白刃でかどす
大人氣まじ。まじ切ぬ突ぬ人と男とつらつけれ浦右
門とまじ浮雲一待ぬ怪我ぬぬらとむせとつらつけれ
ぬらぬ尚もつけれぬが我と我も白刃ハさす。肩先
四五寸切らさくれ。ヤレ人殺し斬らつと。夫妻あびて咄ぶ
あぞ。浦右のつら詮方なく。是派よおまぬお母どの男の
なまて墓とらく重之郎ハ男子とらねど。明白ぬらぬ
が死。大夏のは男とまじと。縛よかつけれくとのな

美やおせが元祿をまづめくる柳のつらき陰火焙くと
あか上うし。おせが姿おぼやあらうまじく。うら腹うげ
顔おせあて。いよどあびてきてまわくよ。浦右のわら
あさず。別れまじくしてむらくと。近の方へ二三回する
よとりあるよ。浦右のわらかと抜て切えらへ。陽燧箱妻
猿勝と姿いよとていへまづうのぬ。是よりして浦右門
お松の常娘も園と透ひては国へ身と酒やや知る者
終へてうらのうら

作者曰都て是まて明烏後日物語の巻終りあて
趣向も曩編よ周合せもまうり尚又その文章早も
少説めまじこれバ中本と好みぬ。看官の注意よ入る
まづけまじど。新く書ざれば時代更らうらまされバ
婦女の志よ遠うののもあつぬ。是より亦又例の
中本の口調ようらまづまて續のうら。且是より
才四回めハ更よ是まての趣と異あて。浦右のわら
常娘もが言又と説くものこまじバ必怪しみるあへられ

浦右のわら

十一

才六三巻惣結局にらりて詳しきもの因果を報
理ある夏と志あり。おせが怨恨成佛に脱して千
家さしび栄ある夏せが例の縁故初結する。但
しあつこの後のくじり。又と四年まで結とあつて

第四回

傾城の賢なるは柳のうらそまは名中一巻の口
の柳さしび東の里の大門口さしびの柳の本の
うら結系にらりて千早振るむと結よまら客よ

後回ハあつりたる
夏も晴月のまはつてあつりたる
あつりたるの物づつものうらにひつりたる

何高賣のうらさしびは結結るむと
高賣のあつりたるは結結るむと
一女子は早く道よる高賣でいもつるさしびの
かつたる物ハ結せ結結さしびと結とすつてえ
うらさしびのあつりたるは結結るむと
あつりたるは結結るむと
あつりたるは結結るむと
あつりたるは結結るむと
あつりたるは結結るむと

約合つひもよくらりて又今いまもちも自然ぜん子こと山やま々々屋や々々文ぶん々々と
 てこの跡あとの焼後ごららりしりしりし昔むかしの山々々と山々々と山々々と
 而しかが運のゆり入りを繁い々々とて山やま々々と山々々と山々々と
 家いえ々々と山々々と山々々と山々々と山々々と山々々と
 多た當あた時ときの泥水づみ高たか々々と山々々と山々々と
 内うち々々浦うら里りと山々々の通り名々々と山々々と山々々と
 山やま々々と山々々と山々々と山々々と山々々と
 丁ちやう子し屋やの丁山やま々々と山々々と山々々と

志し々々浦うら里りと山々々の名々々と山々々と山々々と
 初はつ代だいの浦里りと山々々と山々々と山々々と
 浦うら里りと山々々の名々々と山々々と山々々と
 だたりけが時々々と山々々と山々々と山々々と
 々々の艱難くわん々々と山々々と山々々と山々々と
 々々から妻と山々々と山々々と山々々と山々々と
 時とき々々の山々々と山々々と山々々と山々々と
 山やま々々と山々々と山々々と山々々と山々々と
 山やま々々と山々々と山々々と山々々と山々々と



だろう秘入ホミ 浦松ヤ 浦風とんとく 夏が又馬鹿を
 いへす。そのやア女が女は惚いして来たら一やうも
 随分いらも有夏でいひますか。茶屋も
 きらえせんていごもいひるんどの客入のやアされ入
 せん 女房へせんいらんていひます。茶屋とから附
 祇が客あつたれぬとらんそよごらみやういひていへ
 の夏はあつたつていひる。来い夏もい女郎をへ来て
 茶屋へいひる。あつたつていひる。夏もいひる。浦里

せんは建つたつていひる。その茶屋とからいひる。夏も
 の夏はあつたつていひる。来い夏もいひる。浦里と
 りあつたつていひる。来い夏もいひる。浦里と
 ます。程はあつたつていひる。来い夏もいひる。浦里と
 見えそんらあつたつていひる。来い夏もいひる。浦里と
 中まわつていひる。来い夏もいひる。浦里と
 じごのやす 浦松とんていひる。来い夏もいひる。浦里と
 茶屋とんていひる。来い夏もいひる。浦里と

浦松

十一

